

◎薫風背にアマダイ号走る

風薫る五月、街中の喧騒を離れると、綺麗に水の張られた田圃から早苗が顔を出し、気持ち良さそうに風に吹かれています。少し間違になりましたがそんな春風を背に、赤い自転車で、又、弾む気持ちを届けてもらうことにしました。

三鷹寮の三谷先輩(S33年入寮：(株)スミスバーニーインターナショナル投資顧問部東京駐在代表)からお前は甘鯛に似ている、甘鯛の一夜干しは別名銀座干しとも呼ばれ高級品だと言われ、直ぐその気になって水族館通信をアマダイ通信と改題。発行所も銀座一夜干館とし、たまに顔を出すシエノザミに置いてもらうことにして、これが第二号。だが考えてみると、銀座で甘鯛の一夜干しは食べたことなし。先輩の通う銀座と私のたまに行く銀座と違うのでしょうか。先輩に是非ご案内して頂ければと思います。

思えば、プロジェクト猪の結成に参画し、その中から団塊議員ネットが生まれ、田舎で能代山本フォーラム21の活動を始めて以来、勉強がてらのシンポジウムや講演会、更にはコンサートまで、何時も二つ、三つの企画を抱え、自転車操業。しかし、多少息切れしたのか、他に事情（色めいた逆さ言葉であったら良かったのに）があったか、一月の三鷹クラブのオトキさんのコンサートと能代山本フォーラム21の丸井の金子部長の田舎での講演会以来、「自主企画」から遠ざかっていましたが、雪解けとともに再びポロ自転車を走らせ始めました。一生懸命こぎ続けますので好きな時に、好きなだけ相乗りして下さい。アマダイ号は幾らでもこぎ手を増やせる不思議な自転車です。

◎97年春・夏のアマダイ企画その1

第70回東大五月祭特別企画

シンポジウム「科学技術立国日本の針路と大学改革」

経済のソフト化、マルチメディア化、ボーダーレス化が急速に進み、規制緩和と経済構造の改革、政治、行財政改革が声高に叫ばれる時、果たして日本は明治維新以来の「第三の革命」を成し遂げ、沈没の縁から蘇ることができるのか、又、その方策や如何。

今や東大の学生からも就職せずにベンチャー企業を起す「起業家」の出る時代。政・財・学の気鋭が「技術立国日本の針路と大学改革」というテーマで激しく切り結び、日本のこれからを論じる中から日本再生の方途を探るとともに、大学・技術・起業・経済・政治について次代を担う学生諸君に問題提起し、ともに考える。

- 主催：東大三鷹国際学生宿舍自治委員会有志
- 後援：プロジェクト猪・団塊議員ネットワーク
- 日時：5月24日（土）PM2時開場 PM2時半開演 PM5時迄
- 場所：東大工学部2号館大講堂
- 講師：鳩山由紀夫（衆議院議員・民主党代表）、松井孝典（東大理学部助教授・地球惑星物理・S41年三鷹寮入寮）、神蔵孝之（(株)イマジニア社長・・・ゲー

ムソフト) (予定), 西和彦 (㈱アスキー代表取締役社長・・・コンピューター・マルチメディア関係出版), 松原隆一郎 (東大教養学部助教授)

●懇親会: 終了後学生も交えて懇親会を行います

◎97年春・夏のアマダイ企画その2 5・31団塊の世代議員シンポジウム

「地方分権とこれからの日本」

ところで、プロジェクト猪・団塊議員ネットワークも昨年6月15日の結成以来、種々の勉強会やシンポジウムを開催するなど、超党派の団塊世代の議員の交流、情報交換、学習の場として及ばずながらも活発に活動してまいりました。ただこれまで活動の場が東京に限られ、全国展開が課題となっておりましたが、おかげさまでようやく仙台でシンポジウムを開催する運びとなりました。

ともに政治を憂い、国の将来を憂える団塊の世代が党派を越えて集い、大いに論じ、世代の力で政治のこの閉塞状況を打ち破る第一歩を、東北の地から踏み出すことができればと思います。

●日時: 5月31日(土) PM2時開場 2時半開会 5時より引き続き懇親会

●場所: 江陽グランドホテル

●記念講演: 大内秀明東北大学教授

●基調報告: 浅野史郎宮城県知事

●パネラー: 鳩山邦夫衆議院議員(民主党副代表), 中野正志衆議院議員(宮城2区・自民党), 木幡弘道衆議院議員(東北比例区・新進党), 辻隆一仙台市議(社民党), 小畑元大館市長(予定)

◎97年春・夏のアマダイ企画その3

東大三鷹クラブ 第二回ランチタイムコンサート

ロシアのアンサンブルと歌おう!

●登紀子と歌う

東大三鷹クラブ定例懇談会の10回突破記念に、1月11日(土)の午後、表参道のテアトロ・スガリー青山でロシア料理に舌鼓を打ち、ウオッカを飲みながら、一昨年 of 寮祭に無料出演して頂いた加藤登紀子さんの歌に耳を傾け、そして最後に青春のあの頃に帰って、寮で良く歌った琵琶湖就航の歌や北帰行等を彼女と大合唱しました。

●濡れ落葉にならないために

百名ほどの会員と家族の方が参加し、盛況でした。過半がカップルでの参加で、日頃の労をねぎらう(同伴割引あり)者あり。そろそろ二人だけで向き合って過ごす人生に差し掛かって、「濡れ落葉」とか「ワシモ族」と言われないように、失地回復を図る者あり。楽しく有意義な時間を過ごせたのではないのでしょうか。

●ロシア民謡を歌おう

第二回はロシアのアンサンブル「サドコ」の来日に合わせ、ロシア民謡のランチタイムコンサートを企画しました。寮や歌声喫茶で歌ったカチューシャや黒い瞳、ステンカラージンなどのロシア民謡を共に楽しもうと思います。

前は食事の量が少なかったとの声あり。残食に群がる、食欲旺盛な欠食少年だった頃を思い出し、今回は工夫を加えようと思います。

●日時：97年8月2日（土）PM1時開場、1時半開会

●場所：テアトロスガリー青山（宮団地下鉄表参道A3出口）☎03-3475-6648

●会費：八千円、同伴者七千円（三人目以降も同額）

●問い合わせ：干場革治（携帯☎010-708-8245）

●申込み：ファクシミリで03-5477-7487（MC技研・杉原隆紀・1970年入寮）へ

●定員（120名）に達し次第締切り（出欠厳守、万止むを得ない場合は事前連絡厳守）。

◎2010年の私・・・子煩悩な好々爺でありたい

かつての医学連の幹部で地域医療研究会会長・徳洲会千葉病院院長の村田恒有さん（東京医科歯科大学卒）が、この夏の地域医療研究会の大会に合わせて「2010年の私」という題で原稿を募り本を出すとのことで原稿依頼あり。医者だけでは偏るとの配慮と思い、標記の題で原稿を寄せる。没になるといけないので、出版に先駆けて公開。

●子育ては楽しい

26歳で結婚し、長男ができたのが28歳。結婚は自立した男女の対等な結びつきであり、それぞれが経済的にも家庭的にも自立すべきである。確固とした信念の下に私は妻に出産後も働くことを求め、自分も子供を保育園に連れて行き、オムツを替え、ミルクを飲ませた。アパート代を払うのが馬鹿らしくなって中古の小さなマンションを買うことに決めた時も、二人目の子供が産まれる時のことを考え、ゼロ歳から預かってくれる保育園を探し、その近くに決めた。

当時、塾や予備校の講師をする私には時間がたっぷりあった。一週間の半分、しかも半日ずつ働くと“経済的自立”が可能であり、残りの時間は“家庭的自立”のために使うことができた。遅れて9時くらいに子供を保育園に連れて行くと、子供好きの父親だということがわかるのか、一緒に遊ぼう子供達は何人も駆け寄って来る。ひとしきり遊んで家へ帰り、洗濯機を回し、掃除機をかけ、コーヒーを飲みながらゆっくりと新聞を隅々まで読む。それから空いた電車に乗って、卒業した大学の大理石で出来た図書館の、紫檀か黒檀の黒光りする机に向かって法律書をひもとく。今から思うと何と贅沢な時間を過ごしていたのだろう。

夕方保育園に子供を迎えに行くのは学校給食の栄養士をしている母親の役割だ。たまに忙しい時は私が迎えに行く。子供が風邪で熱を出したりして保育園に預けられない時は大変だ。私の仕事が入っていない時はいいが、昼に授業があったり、教材作成の打ち合わせがある時はどちらが休んで子供の世話をするか綱引きになる。それでもやはり子育ては楽しい。火がついた様に泣けば泣いたで、熱を出せば出したで、どうしたのだろうとおろお

ろし、昨日と今日で何か変わったことがあったのだろうかと色々思いを巡らす。毎日がパズルゲームであり、筋書きのないドラマである。休日に近くの公園に連れて行って無邪気に遊ぶ子供の笑顔をみていると、子供は可愛い、今が一番可愛いと、何時もそう思う。子供は最高の“大人の玩具”である。その楽しみを妻と共有出来た私は、世の父親に比べて一つ得したかなと思う。

●もう一度、子育ての楽しみを下さい

2010年、その時、現在21歳の長男は34歳、17歳の長女は30歳。それぞれ結婚して子供をもうけているかどうかは、時代のトレンドからしていささか心許無い。それでも結婚して子供を育てる資格は十分にある。それに結婚しなくても子供をつくり、育てることも可能だし、今以上に社会はそれを許容する雰囲気になっているだろう。しかしこの先、息子は結婚出来るのだろうか、結婚したとして相手は子供を産んでくれるだろうか。娘は結婚しなくても、せめて孫をつくってくれるだろうか。

ところで、社会の高齢化が更に進み、若年労働力人口が減少して行く時、生産力を一定水準に保ち、生活水準を維持する（敢えて向上するとは言わない）には、女性の社会参加か高齢者雇用の確保、外国人労働力の移入が必要となる。とりわけ女性の労働力としての社会参加が進む。しかし、出生率がどんどん下がっていく時代に、女性の社会参加が進めば進むほど、我々が“子育てをもう一度楽しむ”ことができる確率は少なくなる。

●「産まない女」はなぜ増える

かって、そして若干緩和されながら今も、女性が働きながら子供を育てることはとても苦勞のいることである。そのために子を産むと多くの女性が働く意欲と能力を持ちながら、子育てに専念することを強いられる。そして子育てが終わっていざもう一度社会に参加しよう、働こうと思ってもその能力を発揮できる場、その働きを正当に評価してくれる職場は少ない。勢いスーパーのレジ係や外食産業のウエイトレスとして、時給800円や900円の世界で、高校生や大学生との競争にさらされる。翻訳等の専門的な知識や能力の要求される世界でも、パートではその倍くらいというのが現実である。時給2000円としても8時間働いて1万6000円、年間250日働いても400万円。自立して家庭を支えることは難しい。まして高校生や大学生との競争にさらされるような単純な作業なら200万円以下。これでは敢えて労働力市場に出て来ない女性も沢山いる。

それを越えて女性の労働力としての社会参加を図るには、女性が働きながら安心して子供を育てることが出来る社会システムをつくるか、労働力市場に再参入する時に男性と同じ条件で雇用するシステムを作る必要がある。そうしないと出生率は益々下がって、悪循環を繰り返すだろう。男中心の社会を維持するために、何も女は苦勞して子を産み、育てる必要はないのである。「産みたい女は産めばいい。産まずに私は働き続けるわ。それで何が悪いのよ。」と。かくして、産まない女が増えていく。

●女の幸せは男の幸福、世界の平和

確かに自分が企業の中で雇用する立場に立つと、女子は雇ってもいづれ仕事を覚えた頃には結婚し、家事の都合で融通が利かなくなる。又、子供を産んで長期に休まれたり、やめられたりする。それなら男子を雇った方が効率がいい。女子を雇ったとしても結婚した

らやめて欲しい、妊娠したらやめて欲しいということになる。だが、子供は女だけで出来る訳ではない。なぜ女だけが仕事をやめて子育てをしなければならないのか。

それに効率を追求するだけの社会は男にとってもいい社会なのであろうか。毎日何時間も残業があって子供の送り迎えも出来ない、子供が病気でも有給休暇も取れない、親が対応出来ない時に子育てをサポートするシステムがない社会は男にとっても幸せを保障する社会ではない。それに子育ては楽しい。工夫すれば美味しいものが出来て家族に喜んでもらえる料理だって楽しい。そんな楽しみを伴侶と分かち合える男の幸福があってもいいのではないか。

大競争の時代、ボーダーレス経済の時代にそんなことを言っていたら外国との競争に勝てないと言われるかも知れない。しかし労働時間の長さで外国との競争に勝とうという時代では既がない。時間の長さで価値を計る様な仕事や技術はより生産性の低い所に移転し、雇用所得が少なくなる分は配当等の利子所得で補えば労働力を移入したことと同じ結果となり、相手国の技術と所得の嵩上げを図ることも出来、お互いにハッピーである。長時間労働で疲れた頭からは柔軟な発想、クリエイティブな技術は産まれない。先進国には多少の負荷をつけて競争することによって先進国経済の高度化と技術革新、後進国経済の嵩上げと貧困からの脱出が可能となる。全体が豊かになることによって世界の平和も保たれる。技術革新が人口と環境の問題を解く鍵を与えてくれるかも知れない。

●孫の手を引き保育園に向かう

新宿の駅頭で橋本総理の街頭演説を聞く機会があった。人口の高齢化と少子化傾向をなんとかしなければと説く彼ではあったが、ついに具体的な解決策を聞くことは出来なかった。多分、「女は内、男は外」という考えの持ち主には現状を語れても、その理由について、解決策について語ることは出来ない。それは団塊の世代以下の新しい価値観を持った人間がリーダーシップを握ることによって可能となるのではないか。

幸い市場のニーズと意識的な人達の努力によって保育所も増え、駅型保育等その形態も多様化し、週休二日制の定着から週四十時間労働制へと労働時間も短縮された。育児休業制度も導入され、フレックスタイムや在宅勤務等勤務形態の多様化も進んだ。形の上では結婚した女性が子供を育てながら働ける体制は整ってきた。私が子育てを楽しんでいた頃と違って、保育園に子供を送り迎えする父親も増え、育児休暇をとる父親や外で働く妻を支える“主夫”も話題になる時代になった。そして子育てと共に女性を社会的な労働から遠ざけるもう一つの要因である老親の介護についても、取り敢えず介護保険という形でその社会化の歩が踏み出されようとしている。

時代は変わり、男女の意識と在り様も変わる。2010年、息子は共働きをしながら家庭を持ち、娘はシングルのみで子供を持ち、私は晴れてお爺さんになっている。四十歳でサラリーマンを始め、五十歳で脱サラして以来、何社かの営業を手伝うなどネットワーク稼業に精を出して来た私だが、63歳になって孫の手を引いて保育園に向かい、休日には一緒にブランコに乗り、絵本を読み聞かせている。

◎三鷹クラブ第14回会員懇談会・・・当面する我が国防衛問題について

1月22日の伴建設事務次官(S34年入寮)の講演会の様子は4月8日の日経新聞の一面の

コラム「2020年からの警鐘」に「東大三鷹クラブ」のタイトルで載る。JR西日本の南谷新社長(S35年入寮)に取っていただいたJR共済の大阪弥生会館での3月の第12回懇談会は木下日銀理事、大阪支店長(S35年入寮)を講師に、東京組も含め60名程参加。在阪会員数に比べ高い参加率で、終了後思い思いに二次会へ。同期の高見君(緑の地球ネットワーク)、2年下の谷池洋、浅野博士両弁護士とミナミの繁華街の谷池君のシマに繰出し、遅くまで盛り上がる。5月7日の第13回会員懇談会も西部邁さん(S33年入寮、評論家)を講師に90名ほどの会員の参加(過去最高)で盛況。

第14回会員懇談会は、防衛庁の秋山昌廣防衛局長にお願いして「当面する我が国防衛問題についてーアジア太平洋地域の安全保障の今後の展開ー」と題するお話をさせていただきます。冷戦の終結とともに期待された新しい世界秩序はまだ見えず、むしろ流動化し不安定になった地域が少なくないようです。東アジアにおいても、いまだ安定を見ない朝鮮半島の状況や超大国として台頭しつつある中国とその周辺動きなどは、事と次第によっては日本にも大きな衝撃を与えずにはおかないでしょう。かつて60年と70年の安保闘争に参加し、日米安全保障条約に反対した世代が、その後これまで深く考えずに済ませてきた安全保障と防衛の問題は、沖縄の基地問題をはじめ、いま重い課題として我々の上のしかかっています。この問題に関して政府の中核におられる秋山さんから直接お話を伺い、我々自身が考えるためのよすがとしたいと思います。

JR東日本文化財団専務理事の菅さん(1960年入寮)によれば、秋山さんは1964(昭和39)年法学部を卒業、大蔵省から防衛庁に転じ、人事局長を経て現在に至る。法学部同期ながらあまり授業に出なかった菅さんは全く知らなかったとのこと。1976年から三年あまり、既に破綻の色が濃くなった国鉄の財政再建問題が内政の最大の課題となってきた頃に、主計局で運輸担当の主査をしておられた秋山さんのもとへ、国鉄の工事予算を担当していたので折衝のために日参し、仕事上の立場の違いを超えて気持ちよい交際をさせて頂いたのも、ひとえに秋山さんの人徳のおかげ。この20年前のよしみだけを頼りに今回の講演をお願いしたところ、東京出身で三鷹の寮生活とは無縁なのに、ご多忙中にもかかわらず快く引き受けて下さったとのこと。

- 日時：7月14日(月曜日)18時開場、18時30分食事、19時開演、終了後二次会
- 場所：学士会館(千代田区神田錦町3-28 ☎03-3292-5931)
- 会費：5,000円(食事代を含む、飲み物付き)
- 定員：先着順100名(定員を超えない限り、特に連絡いたしません)
- 申込み：ファクシミリで03-5477-7487(MC技研・杉原隆紀・1970年入寮)へ

◎“大義のためには死をも厭わず”

かつて学生運動をしていた頃、自衛隊の憲法第九条違反を叫び、自衛隊の解体を主張。一方で、革命の暁には赤軍を創設し、いや革命戦争の中から赤軍は作り出される。世の中に階級が存在し続ける限り、戦争が、軍隊が存在し続けると説いていました。そして、革命のための軍隊は認められるが、反革命のための軍隊は認められないと。今から考えると整合性のつかない議論をしていたような気がします、まず台湾、朝鮮を植民地とした日

本の旧軍隊が、自衛のためと称して中国への侵略を始め、戦火をアジア全域に拡大していったのも事実。何のための軍隊、誰のための戦争なのか厳しく検証される必要があります。

他方、今回のペルー人質事件も一つの戦争。絶望的に貧しい国で、市場と議会を通じては解決不能な程に極端な貧富の差が存在し、貧者の人間としての存在が無視されるとすれば、法の枠組みを越えて暴力的な解決を図ろうとする勢力が出現するのも道理。それに力で対抗するフジモリ大統領の公邸突入とゲリラの皆殺しは、その強さではなく弱さの証明。一時的な解決にはなっても事件は再び繰り返されます。自らの死を覚悟したゲリラにとって、プロジェクトの失敗は反省材料にはなっても、皆殺しは抑制策にはなりません。かつて我が国では浅間山荘事件で連合赤軍は生きて捕らえられ、国内で事件は再び繰り返される事はありませんでした。それに比べてフジモリ大統領の余裕の無さとそのパフォーマンスの虚しさを感じるのは私だけでしょうか。浅間山荘事件は日本では左翼の中でも“一部の跳ね上がり分子の仕業”で終わり、あとは警察の佐々先輩の飯の種になっただけですが、ペルーではそうでないからこそ皆殺し。フジモリ大統領にとっては殺すか殺されるかという差し迫った問題なのです。

いずれにしろ戦争の可能性を認め、自衛のためとは言え軍隊の存在を認めるということは、あらためて死ぬ覚悟を問われること。ナポレオン以来の“国民戦争”の時代になって、戦争をするのは自分とは違う誰かで、対岸で見ていればいいという訳にはいきません。かつて“革命の大義のためには死をも厭わず”と本気で考え、“学生運動を取るか自分を取るか”と恋人に迫られた時も“女のために人生を変えられるか”と言って憚らなかった私も、今あらためて誰のために、何のために死ぬのかと問われると心許無い。結局のところ、死ぬほどの覚悟を持ってない今の私としては、国内で、世界で先ずは戦争に至るほどの争いの種を無くすること、解決策を戦争に求めなくてすむような相互理解、国際的信頼関係を築くこと、そのために自分なりに出来ることをすることだと思ふのみ。

◎お節介ですが

3月1日に三鷹寮で追い出しコンパが行われる。平賀代表他OB数名で金一封を持参し参加。今回は三鷹国際交流協会、留学生、大学の三者で国際交流と寮の在り方を巡ってのシンポジウムが行われる。留学生からは寮の主体が教養の学生で年齢と意識に差があり過ぎてうまく交流出来ないこと、交流の場が少ないこと、国内の他の施設、例えば横浜国大の留学生会館に比べても施設も貧弱で学生生活が面白くないこと等が指摘された。又、留学生のチューターを務める大学院生からも、自分が留学していたアメリカの至れり尽くせりの留学生活に比べると不十分な待遇で申し訳なく思うとの発言がある。市が事務局を務めるボランティア団体の三鷹国際交流協会からは市民による留学生の支援と国際交流の活動が紹介される。さすが所得水準だけでなく知的レベルも高い三鷹市民だけあって、手厚い支援と多彩な交流活動が行われている。

それにしても、留学生から寮を拠点にした学生生活が面白くないと公の場で指摘されたのは初めてで衝撃を受ける。せっかくの国際交流の場としての寮（三鷹国際学生宿舎）がその機能を十分に果たせず、学生生活が面白くないとしたら、親日どころか、嫌日、反日

派を大量生産しかねない。OBに何ほどのことが出来るのか、多少のお節介は承知の上で交流の場作りのお手伝いが出来ればと思う。又、三鷹国際交流協会にもお手伝いして頂き、多少とも寮の機能不足を補ってもらえればと思う。そういう訳で三日前に連絡をもらった4月20日の新入生歓迎パーティにも私の方から連絡して三鷹国際交流協会にも出席してもらい、活動の案内をしてもらう。

◎応援だ！ん？宣言第三弾・・・黄土高原に緑を！

何度か紹介した41年入寮同期の高見君の「緑の地球ネットワーク」(GEN)の中国の黄土高原に木を植える活動ですが、お陰様で着実に輪が広がり「応援だ！ん？」から応援団に発展を遂げています。一緒に組んで能代で、高松でと講演をしてくれ、外務省の草の根無償資金協力を受ける際にも世話になった駒場の中国語クラス同級の下荒地外務省国際情報局参事官(前北京公使)は総領事としてバンクーバーに行ってしまいましたが、他にも沢山の人が応援してくれています。環境事業団・地球環境基金の支援を受ける際にお世話になった環境庁の小島保健企画課長(S43入寮)は、この十二月に京都で開かれる第三回気候変動枠組条約締約国会議(通称COP3=コップスリー)に向けた活動で高見君の活躍の場を提供してくれています。又、高松で講演会を開いてくれた駒場の同級生の立野君は高松弁護士会長就任祝賀会の会費の中から十万円を寄贈してくれました。KDDの勝部サービス計画部長(S43入寮)、NTTインターナショナル宮脇マーケティング部部长(S42入寮)、有富郵政省大臣官房総務課長(S43入寮)、小畑農水省大臣官房審議官(S42入寮)等沢山の支援を受けて、年間生活費二百万円という(私の飲代とどっちが多い!?)、省エネタイプの高見君の事業は年間四千万円と膨らんでいます。

そんなGENの活動の発展に伴い新しいパンフレットが出来ましたので同封致します。会員になって、テレカを送って、ワーキングツアーに参加して、黄土高原に緑を増やす運動に協力していただければと思います。この春のワーキングツアーには入寮同期の飯田徳松(リーマンブラザーズ証券東京支店調査部)君が参加し、感激して帰って来ています。因みにこの夏のワーキングツアーは7月24日関空発8月3日関空着で、費用は23万円。

◎6・14(土)プロジェクト猪第三回総会・・・猪瀬直樹VS橋爪大三郎

ウリ坊もようやく三才の誕生日を迎えます。併せて団塊議員ネットワークの二才のお祝いもします。「日本国の研究」(文芸春秋)で今書評欄を賑わせている評論家の猪瀬直樹さんと橋爪大三郎東工大教授(社会学)がお祝いに駆け付けてくれて「団塊世代のこれからの役割」について対談してくれます。場所は四ッ谷の弘済会館。2時20分から猪の総会。3時から団塊議員ネットの総会と対論。5時から交流会。

◎団塊霞ヶ関白書

後藤田正晴、堀田力、石原信雄、宮崎勇、内藤正久氏等官僚OBの方々にアドバイスをいただき、賛同していただく作業のため少し手間取っていましたが、アンケートを間もなく発送します。霞ヶ関の皆さん、宜しくお願い致します。中途半端ですが、これにて終り。